

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

(令和3年12月3日 午前10時50分)

●議長(佐藤武雄) 会議を再開します。

通告の3、小川敬史議員。

- 1 映画「一茶」の上映に向けて
- 2 病院建設
- 3 子育て支援。

議席番号3番 小川敬史議員。

◆3番(小川敬史) 議席番号3番 小川敬史です。まず、一般質問の前に、9月に飲酒運転撲滅に向けた町の取り組みについて一般質問したところ、早速、11月19日に町教育委員会と県警、防犯協会、安協などが一体となって、町内全飲食店を回る、飲酒運転根絶防犯パトロールを実施していただきまして、迅速な対応、大変評価します。それでは一般質問の1番目として、映画「一茶」の上映について伺います。小林一茶は信濃町を代表する文化人として、また、野尻湖、黒姫高原、一茶の里とする町の観光の三本柱として、とても大事な資源だと思います。そんな一茶の半生を描いた映画一茶は、本来ならば、2017年の秋に公開される予定でした。知らない人もいると思うので、映画の出演者を簡単に紹介しますが、主役の一茶役をリリーフランキーさん、腹違いの弟の仙六役を伊藤敦史さん、父親役を石橋蓮司さん、継母役を中村玉緒さん、一茶の奥さん役を佐々木希さん、水川あさみさんが演じた他にも、豪華キャストが出演していることでも非常に注目されていました。2016年の当時、飯山市内を中心に撮影が行われていましたが、信濃町も100万円の予算をつけて全面的に協力をし、町内でも一茶旧宅や、大久保池などでもロケが行われました。ところが制作会社の破産により、撮影は全て終了しているものの、完成間近で映画一茶はお蔵入りとなってしまいました。本来ならば、その翌年の秋には映画が全国の映画館で上映され、町も誘客宣伝をし、町中が映画の話題で盛り上がるはずだったのに、なくなってしまい、本当に残念です。そこで質問ですが、当時一茶記念館では、文化庁の補助金を活用しての、一茶のふるさと魅力再発見事業として、企画展や町内での映画の上映などを予定したとお聞きしました。当初予定していた内容について、分かりましたら教えてください。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) では、事務的なことでございますので、私からお答えさせていただきます。平成29年度に文化芸術振興費補助金、事業名といたしまして、地域の核となる美術歴史博物館支援事業というものを活用しまして、これは実行委員会形式、一茶のふるさと魅力発見実行委員会で、この事業を活用いたしまして、事業を行ったところでございます。大きく3つの分野でさせていただいたところでございますが、一つは一茶ゆかりの地の案内マップの作成、および、ワークショップ、ガイドツアーの事業、もう一つは舞台、映画一茶の舞台の魅力向上事業ということで、もう一つは俳句の認知度を高めるといような状況で、一茶のふるさと投句箱推進事業という形で、大きく3

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

つに分類して事業を行ったところでございます。内容といたしましては前後いたしますが、今、議員からご紹介ありました一茶役を演じられましたリリーフランキー氏による音声ガイドの作成をいたしました。また、2つ目としまして、一茶のふるさとガイドマップということで、映画のロケ地を中心に町内の一茶ふるさと巡りのためのマップを作ったところでございます。もう一つは、俳句に親しんでいただくということで、かんたん俳句づくりブックという形で、俳句の作る、何と言いますか、ガイドブック的なものを作成させていただきました。また、映画が当時上映されるということを前提で事業を行っておりましたので、そのガイドマップをパネル化したもの、あるいはタペストリーの作成、最後には俳句箱、当時町内に、小丸山公園を中心に投句箱が6つほどあったのですが、町内の各事業所の方々にご協力いただきまして、その時点で約40カ所、投句箱を設置したところでございます。あと、宣伝広告といたしまして、ガイドツアーを行ったところでございます。以上でございます。

●議長(佐藤武雄) 小川議員。

◆3番(小川敬史) 今、教育次長より、当初予定していた、一茶のふるさと魅力再発見事業の内容など説明があり、良く分かりました。当時、制作会社の経営破綻により、映画がお蔵入りしたことや、ロケ地である飯山市の信州飯山観光局が立て替えた宿泊代や、お弁当などや、出演者のギャラも支払われていない状況について、新聞やテレビの情報番組でも大きく取り上げられていましたが、その後、破産手続きに何年もかかって、いつしか映画の話もされなくなってしまいました。最近になって、破産管財人である弁護士から、債権者や映画作成会社宛てに、映画一茶の著作権が破産管財人に有する旨の判定が確定したので、映画の著作権の売却を実施したい、関心ある法人、個人等に心当たりがあったら案内いただきたいという通知があったそうです。そこでお聞きしますが、町には映画一茶が、その後どうなっているかの情報は入って来ているのでしょうか。お伺いします。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 著作権が売却されるというようなことは、この質問の通告をいただいた中で初めて知ったところでございます。また、当時の協力を行った関連団体等に問い合わせを行ったところ、著作権の売却については、10月中旬に通知があって、申し込みは1月12日までと、なっているというようなことございました。売却はこれからになるというようなお話でした。以上です。

●議長(佐藤武雄) 小川議員。

◆3番(小川敬史) 町でもそういった情報を調べていただいたということで、売却方法は随意契約により、売却金額は1000万円以上とする。ただし、売却先の決定は金額だけではなく、映画の完成、上映に向けた実現可能なども考慮し決定する。映画の著作権には、原作や脚本、音楽の著作権が含まれていないので、今後調整が必要とされています。売却期限は先ほどもお話がありました通り、1月12日とされていますが、今現在、いくつか問い合わせはあっても、まだ購入するという申し出はされていないようです。

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録（2日目）

映画の著作権を行政で購入すると言うのは、当然無理ですが、一茶のお膝元の町として、今回の売却情報を公表し、映画の完成、上映に向けて働きかけをしていった方が良いのではないかと思います。これについてどうお考えでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 問い合わせをした時に、管理団体の方から、映画について制作の途中であって、そのまま放映できるような状態ではないというようなこともお聞きしております。また、著作権を取得しても、更にまた完成までに、費用がかかるというような状態だそうです。そのようなことで、なかなか、ちょっとその辺は難しいのかなというふうに考えます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 今、答弁をいただいて、ちょっと難しいという話だったのですが、今回の映画一茶の著作権売却の情報の公表については確認済みです。むしろ、できるだけ、そういった情報を拡散して映画の上映に漕ぎつけるためにも、して欲しいという、お話でした。一茶のお膝元である信濃町は、ただ、眺めているだけではなく、映画の上映に向けて、何らかの働きかけや行動をする必要があると思います。実際に映画が上映されれば、メディアに取り上げられ、観光客は訪れ、町が活気づく、一番のメリットがあるのは信濃町だと思います。映画の上映に向けた働きかけとして、ホームページや広報への掲載や新聞など、マスコミへの情報提供等もするののひとつの方法だと思います。すぐに、費用的、あるいはいろいろな部分で購入者が現れるかどうか難しいですし、購入者が現れても映画の上映まで何年かかるかも分かりませんが、実際に上映が見込まれる際に、当初予定していたような取り組みを再度検討していただけるかどうかお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 小川議員さんから、いま、映画一茶に関わって、経過も含めてご質問も頂戴して、今そういう状況にあるということでございます。これは公の立場として、どこまで関われる問題なのかということも、大きな問題があるような気がいたします。私ども一茶という映画については、町もある面では、先ほど言われましたように、大久保のため池だとか、様々な、様々と言いますか、数カ所で撮影をされたし、撮影の折には、私も現地に行って撮影の監督さんともお会いするような、そんな機会もあったわけでございます。そういったことで、大変、全国的にも放映と言いますか、公開されれば大変ありがたいなという思いで、現地へ行ったものであります。これは、もう一つは、様々、その後の興行権だとか、いろいろな問題が関わってくるというふうに思っております。そういった意味では、公な立場として、例えば、ある面では民間的にそういう立場になったら、確かに一茶という題材そのものについては、私どもは地元であって、大変関心のある部分なのですが、それを含めて慎重に対応しなければいけない立場ではないかなというふうに思っております。公開の問題については、何年かこれ、先ほど話がありましたように、飯山

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録（2日目）

市の観光局、たまたま1年に1回か何か、様々な会議があるわけでありまして。事務局長とも、そんな話で、向こうのほう、つまり飯山市観光局のほうからも、関心を持っておられて、その辺をぜひ公開に結び付けていきたいというようなお話も受けております。具体的なその中身については、私は、あまり承知はしておりませんが、多大な、多額な出資を、出資と言いますか負担をした飯山市さん、そういう面では、その辺りについても、後々の公開に向けて、多分、今もそのような情報をしっかりと収集しながら、対応されているのかなというふうに思っておりますが、これは先ほども申し上げて、何と言いますか、恐縮なのですが、公の立場とすれば、そういう方法が適切かどうかということも含めて、今後も慎重に検討してまいりたいというふうに思っております。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 町側の立場もあり、慎重に検討していきたいということなので、分りました。次の質問に行きたいと思っております。続きまして、2番目の病院建設について伺います。先ほど、同僚議員の質問への答弁もあり、重複している部分がありますが、非常に重要な事項で、今、質問しないと後々取返しのつかないことになると思っておりますので、よろしく願いいたします。10月22日に病院建設予定地の周辺住民を集めて、周辺道路改良方針説明会を開催し、町側からは副町長をはじめ、建設水道課と病院関係者が出席していたようですが、先ず1点目は、今回の住民説明会は、どのような趣旨で行われたのかお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 質問に対してお答えをさせていただきたいと思っております。こちらにつきましては、病院建設に伴いまして、一番中心となってきます道路も当然、計画に入ってくるわけございまして、当然その辺のところ、住民と言うのですか、先ほども申し上げましたけれども、町の10、11、12、13、14、15、それから18組という周辺の方々に、道路計画の概要と、ここに至る方針的なことも含める中で、説明をさせていただきました。世帯とすると、170世帯のお宅に通知等々を出しまして、参加者につきましては、17名と、若干少なかつたかなとは思っておりますけれども、町のほうの考え方、実際には道路を改良していく上においての問題点等々も住民の方々から寄せていただきました。そういったことの中で、町が計画している内容を、一番近間の方々にお知らせしないと町の方の事業の進捗にも影響が出て来るという、そういった中で情報提供という意味でさせていただきました。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） なぜ、このような質問をしたかと言いますと、昨年8月に総合会館で開催された病院再整備基本計画住民説明会に私も出席して感じたことですが、町民の意見を聞いて、より良い病院建設に活かすというよりは、住民説明会をやったという事実をただ残すための形だけの説明会だったと、私は感じてしまいました。その時の説明会には、多くの町民の方が参加されていて、たくさんの意見が出されました。当然、

令和3年第419回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

その中には建設予定地への出入口となる道路の坂が急すぎて危険なので、果たしてあの場所で大丈夫か、質問される意見もたくさん出されました。結局、いろいろな意見を言っても、いつも言われるのが、予算がなくてできない、ほぼ確定です。今回、10月22日に行われた説明会に参加された町民の方も、その時の私と同じような感想でした。それと、その時に用意された資料は道路改良の図面だけで、病院の建物や駐車場の位置などが分かる図面が示されていないと、住民の方々からすると、住民を馬鹿にしているという形で、多くの方からご意見いただきました。住民の方も時間を作り、町をもっと良くしたいと思って住民説明会に参加されている方だと思います。もう少し住民の気持ちに立ち、誠意を持って対応をしていただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 説明につきましては、用意した図面が小さかったもので、参加された方々につきましては、ちょっと見にくいというようなご意見をいただきました。その辺については大変反省しておるわけなのですが、病院の計画概要の図面が、そここのところに反映されていなかったため、町とすると、大変、縦割りの話で恐縮なのですが、道路の部分につきましては整備方針という形の中で進めさせていただいた関係上で、そのような弊害というか、細かい図面を用意するような形になってしまいましたので、大変申し訳なかったというふうには思っております。ただ、検討の経緯といたしまして、先ほどの北村議員の方にも申し上げましたけれども、それにあたりまして、経済的な部分ですとか、道路の特徴、環境、そういったところにも配慮する中で、このような道路を計画しておりますというような整備方針の説明でございましたので、若干、参加された方々につきましては、もっと具体的な話はないのかというような、多分、感じられ方もあったのかなというふうに感じております。ですので、現実的に、事業の施工に対しましては、道路の凍結等々も考える中で、もう少し現実的と言うか、よりより、また安全な道路の方の施工に努めたいと思いますので、また、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 今後も、住民説明会に関しましては、参加された方の質問や意見に対する回答など、誠意をもった対応をよろしくお願ひします。それと、病院敷地への出入口について質問します。私は何か事故があった時のことを考えると、最低2カ所は必要、あるいは、裏を含めて3カ所あっても良いのではないかと思いますので、そちらについてお伺ひいたします。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 病院の建設に伴う道路に出入口のことにつきましては、ただいま建設水道課長の方から、建設予定地の周辺道路の整備につきましてご説明申し上げましたが、担当課のほうでは、現在の道路の改良を主軸として、道路の安全性を確保できるように検討していただいているところです。病院の出入口につきましては、旧柏原

小学校の跡地の地形が、東側は社会体育館からの段差があり、西側につきましては町道と施設が接地しておりますので、そこでも段差があるというような地形でございます。現在の地形を活かし、進入の出入り口を作るということで、現状の土地の形状の変更を最小限で抑える方向で、今計画してきているところでございます。自動車やバイクを主とした敷地内の動線につきましては、敷地内における、一番は安全性を確保するということ、また、周辺道路からの進入の安全性を確保すること、また、周辺道路に地域住民の皆さまが住んでいらっしゃる、その生活環境の面からも、今現在は南側、場所から言えば南側の1カ所とさせていただいているところです。複数の動線も考えては来たのですが、安全に、敷地内の安全の支障をきたさない方向で、今、設計、計画をしている状況でございます。実際には、冬期とか混雑時、また、緊急車両の進入がある非常時、通常の時と違う非常時の時につきましても、道路の確保については別に設けなければいけないという部分につきましては、通常は利用しない予定ですが、敷地の概要としては北側の方からも進入できることになっております。そこは運用上で考えて検討していきたいというふうに考えておりますので、敷地内の安全性については、今、ご指摘がございましたが、更に安全な通行を、考えを深めていかなければいけないなどは思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 今、安全の状況を考えて、前向きに検討されているということで、理解しました。それと、もう一つですが、同僚議員から、先ほど質問ありましたが、旧柏原小学校の直ぐ下の町道緑ヶ丘線の拡幅についてですが、今でも狭くて車のすれ違いができない状況で、万が一、対向車が来た際は危険なので、周辺の住民や小中学校もそこを歩くときは、旧柏原小学校跡地側を歩かず、反対側を歩くよう指導されているそうです。周辺住民から町道緑ヶ丘線の道路拡幅について要望が出された際に、町側からは、今回は道路改良と合わせて実施せずに病院開設後の令和7年に実施するというお話でした。今後、新病院ができれば、当然、緑ヶ丘線の車や人の交通量が増えると思いますので、現状のままでは大変危険だと思います。緑ヶ丘線の道路拡幅について、新病院建設前にあと3年あるわけですから、一度に実施するのは難しいというお話でしたが、なぜ同時に実施するのが難しいのかお尋ねします。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） ただいまの質問に対して、お答えをさせていただきます。当日の説明会の中で、7年以降ということは挙げさせていただきましたのは、まず、病院建設の方で、出入口の確保ということが、まず、第一だったということと、それから、実際の、現在、道路の交通量とか、そういったことが、現在まだ調査されておられませんので、そこにつきましては、開設前というか、整備する前に実際の交通量等々を調査させていただきまして、適正な通行量にあった道路確保をするという意味もございまして、そのところを含める中で、実際には小前線の方を先に進めさせていただきまして、その後で、緑ヶ丘線の方の整備という中で、検討させていただきたいというふうに考えております。何も無い状態でいきなりというのも、ちょっと乱暴な部分もあるかなとい

令和3年第419回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

うふうには、形の中で考えておりますので、決して、全て財源の理由にしてやらないというわけではございませんので、そういった細かいところの調査を含める中で事業を進めてまいりたいと思いますので、またご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 今、お話があつた、調査をしてから慎重に行つていくという話でしたが、もし調査をした結果必要ということになれば、令和7年度以前に早めるということも視野に入れているという理解でよろしいでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） この場で、確約という形はできませんので、また状況によりまして、できる限り早めに進めさせていただければありがたいかなと思ひますので、よろしくお願ひします。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 今、現状のままでは何か事故があつた際、取返しがつかないことになるので、病院建設を合わせて調査をした結果、なるべく早い実施をお願ひしまして、次の質問に入りたいと思ひます。続きまして、病院内の設備について質問します。以前、9月13日の議会の全協で、現時点での病院建物の平面図案の説明を受けましたが、売店が見当たらず、不思議に思つて私が質問した際の、病院側の答弁が「売店の設置は資金的にもちょっと難しい」ということでした。今の病院でさえ、売店があつて、何かと便利ですごく助かっています。新しい病院に当然あると思つていた売店がなくて、大変びっくりしました。私も以前、信越病院に1週間近く入院したことがあります。唯一の楽しみが売店に買い物に行くことでした。最近、長野市の病院に入院された方も、今は特にコロナ禍のため、病院内から出られないので、病院内に売店があつて非常に助かると言っていました。売店があることによって、入院や通院患者だけではなく、お見舞いに見えた方、そしてそこに働く方、職員の方も利用できて大変便利です。満足度が非常に上がると思ひます。また、建物の平面図も確定していないようなので、ぜひとも病院内に売店の設置を検討してもらえないでしょうか。これについて病院事務長にお伺ひします。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 新しい病院における売店の考え方でございます。現病院におきましても、小規模ながら売店を置かせていただきまして、住民の皆さまにご利用いただいている状況ではございます。現在の建設における設計の中、計画の中におきましては、実際に売店に必要なものとか、どんな事業者が入っていただけるかどうかということ、全体、病院の全体をコンサル、マネジメントしていただいているコンサル業者の皆さまと共同でどんなものが必要なのかという調査は実施してきてございます。実際に

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録（2日目）

大規模病院のような、コンビニぐらいのものにつきましても、大手事業者様、また、病院の専門の資材を扱っている事業者様、複数にヒアリングをコンサルタント会社の方で実施していただきました。実際には、町の人口規模や立地条件、一番は病院の病床数の数から、とてもちょっと出店の要件を満たしていないというご返事をいただいております。引き続き、地元の事業者様を中心とし、コンサルタント会社の方でヒアリングを進めていただいている状況ですが、やはり設置につきましても、大手事業者様と同様に厳しいという状況が、報告いただいております。実際に、新しい病院の売店の機能として求められるもの、ということで、院内でも物のリストアップ等調査をさせていただいております。基本的には衛生用品を中心という形になっておりますが、実際に入院時に必要な雑貨など、対象となる設置については、基本方針の中で院外処方を含め、念頭に進めておるところですが、その院外処方の敷地内薬局の誘致の中で、そういう売店の機能も持たせられるかどうか、一緒に、今考えているところでございます。実際に、議員のご指摘の通り、病院の施設の面積におきましては、かなり限られた中でありますので、非常に今、難しい状況でございます。例えば、自動販売機なども設置する予定ですが、今の自動販売機も様々な物が対応できるものもございますので、それも含めた中で、今検討している状況でございます。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 分かりました。住民の方は、病院内に売店がないとお聞きすると、びっくりすると思いますし、売店のほかにも、カフェスペースができる、できて欲しいとか、期待している住民の方も大変いらっしゃいます。今後、建物や整備についての住民説明会はいつ頃予定しているかお伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 先ほど、建設水道課長の方からご説明いたしました、生活環境の面から、道路を中心とした説明会を先行させて、説明会をさせていただいたところではございます。もちろん住民の皆様への説明につきましても、何回も行うなかで、住民の皆様のご理解をいただかなければいけないと思っております。具体的には、現在解体設計をしてございます、来年度の令和4年度のスケジュールの中では解体工事を先行してございますので、その解体工事に関わる住民の皆様への説明を、機会をみて、適切に説明会を開いていけばというふうに考えております。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） また、適切な対応をよろしくお願ひします。また、今、全国的にも医師不足であったり、看護師不足となっておりますが、患者さんは元より、職員もこの病院で働けて幸せだと思っただけのような魅力的な病院にしないと、また若い人のほとんどが、町外の病院を利用しているので、今後は町民の大半の人が新しい病院を利用するような病院にしていかなければならないと思ひます。今後、病院建物の説明があった時に要望しても、ほぼ確定ですと言われてしまうので、今の段階であれば、まだ検

令和3年第419回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

討の余地があると思い、新しい病院内の売店の設置について、ぜひともお願いいたしまして次の質問に移ります。

続きまして、3番目の子育て支援について質問します。子育て支援の充実については、議員になって、何としても実現したいことですので、6月議会でも質問しましたが、来年度予算編成前に再度検討していただきたく質問します。前回の内容といたしましては、町の、すくすく子育て支援事業で、お祝い金として子ども1人につき3万円支給していますが、他町村と比較した場合、特にお隣の飯綱町は子育て支援に力を入れていて、出産お祝い金を1人につき20万円を支給しています。信濃町はあまりにも少なすぎるので、もう少し金額を上げるべきではないかと質問しました。それに対する町側の答弁は、お祝い金などの一時的な支給より義務教育費の町費全額負担など、年間700万円ほどの継続的な支援を行っているので、お祝い金の増額は今のとこと考えていないとのことでした。信濃町は継続的な支援を多額にしているということでしたので、それについて、飯綱と比較させていただきました。信濃町は信濃町、他の市町村と比べられるのは嫌だと思いますが、町独自の事業がない中、近隣で且つ同規模の町となると、飯綱町と比較せざるを得ません。まず、鉄道通学定期券購入費補助については、信濃町、飯綱町共に購入額の20パーセント補助と同じです。次に小中学校の学級費については、信濃町は無償化、飯綱町では1万円を上限に補助です。飯綱町の場合は小学校の年間教材費は9000円程度なので、実質、小学校に関しましては、保護者負担はなしです。また中学校の年間教材費は1万円を少し超えてしまうため、超えた分は保護者負担になります。この小中学校の学級費の無償化に関しましては、信濃町の方が手厚い支援なのかなと思います。次に高校生までの医療費無料化については、信濃町、飯綱町共に、1レセプト500円を超えた金額を補助で同じです。これら継続的な支援について、信濃町同様に飯綱町でも実施しているのに、その上、なぜお祝い金を20万円も支給できるのかと疑問に思い、飯綱町の教育委員会に聞きに行きました。飯綱町では、令和元年度に出生数が今まで50人前後だったのが、25人になり、このままではまずいと危機感を抱き、町長自ら出産祝い金を増やそうと言い出したそうです。また、お祝い金などの一時的なお金の支援だけでなく、強みは今年5月10日に町民会館の横にオープンした子育て支援施設だと、自信を持ってお話されていました。どのような施設かというと、1階は子育て支援センター、入園前の親子の遊び場スペースとなっていて、保育士さんが3名ほど在中し、お子さんを預けられ、午前、午後100円で利用できます。その他、乳児検診や、子育て相談の会場としても利用しているそうです。2階には子育て世代の働きを支援するワークセンターがあり、子どもを預けた親御さんだけでなく、子どもを育て終わった親御さんや一般の方まで誰もが仕事スペースとして無料で利用できます。またこの施設は飯綱町の住民だけではなく、町外者も利用できるため、信濃町の人でも大勢利用しているそうです。このように子育て支援に力を入れ、町外者も取り込もうとすることに、大変衝撃を受けました。私は子育て支援について、信濃町も何かしらのアピールができることがあるのではないかと考えていましたが、調べれば調べるほど、少し弱いと感じました。私は、少子化、人口減少に対して、非常に危機感を持っています。信濃町もこのままでは人口減少は待たないで進んでいきます。今、危機感を持って、この信濃町が子育て世代から選ばれる町にするために予算をかける選択が問われると思います。私も最近知ったのですが、町内では今、子育て支援の充実を求める要望として、署名活動が行われているそうです。住民も子どもが少なくなっていることに危機感を持って行動に

令和3年第419回信濃町議会定例会 12月会議会議録（2日目）

移そうとしているので、そういう住民の切実な思いを汲んで、子どもは宝、将来、町を担っていく子どもたちへの支援を充実させて、出産祝い金等の増額について来年度予算編成前に検討していただきたいのですが、いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 小川議員さんから今、子育て支援策についてのご質問でございます。人口減少問題ということも触れて、ご質問を頂戴しているわけでございます。ご心配をいただいておりますし、その辺は、私は全く同じ思いでございます。従いまして、当初から、この人口減少問題、私の、この長の立場として、最重要課題だということを取り組んできているわけでございます。様々な中でいわゆる、その一時的なお金を申し上げて、それが、いわゆる、何と言いますか、一つの方法だとは思いますが、それが直接的に、そういったふうに結び付くかどうかということも、充分考えなければいけないし、どうしてもやはり、基本的には行政を進めるのは、基本的には総合行政だというふうに思っております。そういった中では、一つ一つこう、取り上げて比較すると、これ、お隣だけではなくて、長野県下全部の77市町村全部比較していただければ良いのですが、決して、私どものいわゆる支援策が県内自治体より大きく劣っているとか、そういうことはないであろうというふうに、私自身は思っています。そういう中で、今、具体的な例を出されましたから、お隣の飯綱町さんが、そういうふうに進んでいる、大事なこととして捉えてやっておられる、合わせてこれは飯綱も合併して15年を経つ、15年かな、くらい経とうとするわけです。今までもその合併に伴う財源的な措置等々もあって、この間も飯綱の町長と話をした時も、例えば財源的にも、合併特例債の中で11億円を基金として積み立てても良いのだよと言うような方向の中で、財源的な手立ても十分、なされてきたというようなことかというふうに思います。私ども、やはり今、先ほど、総合行政というふうに申し上げましたが、全体的にどこにどう予算配分ができるか、本当に厳しい状況下に今入っておりますし、これ、今、急に入ったわけではありません。そのために人口減少をどう食い止めていくかということで、真剣にもう取り組んできているわけでありまして。一つは、ちょっと長くなって申し訳ないのですが、一つは、その結果、人口減少問題取り組んで来ている、例えば今年の10月までに、1月から10月までの間に、どうしても高齢化の信濃町44パーセントくらい、今、いっていますから、高齢者の皆さん大勢いらっしゃるわけです。必然的に、その、お亡くなりになる皆さん方が多い、いわゆる、その自然的に亡くなられる、そしてまた生まれるという、この自然動態という部分においては、100数十名が自然に減っていくのだと、いうことでもあります。一方で、じゃあ転入と転出はどうかと、これ、それぞれ亡くなる方もあるのではないかと、何と言いますか、表現が難しいのですが、ご高齢でもあって、自然の摂理として、お亡くなりになるわけでありまして、私は、そういう中で、転入、転出という社会動態と言いますか、そのことをどうプラスに転じていくのだということが、大きな目標だというふうに思っております。そういう面では、今まで取り組んできた中で、例えば今年、1月から10月までの間に、準備していただいた資料によりますと、社会動態の中では、プラス9人になってきているということでもあります。これは、いろいろな状況もあると思います。コロナ禍の状況もあったり、いろいろあると思いますが、そういった状況も含めて、先ほど言うように、総合的な対策を講じていくということであ

令和3年第419回信濃町議会定例会12月会議会議録(2日目)

ります。具体的に今、子育ての関係のご質問でございますが、なかなか難しい問題だというふうに思っています。例えば、ご要望、多くの方から頂いたそれをそのまま執行するのが、理事者の立場かという、なかなかそこは将来的な課題も含めて、慎重に対応していかなければいけない立場だろうというふうに、私自身は認識しておりますので、充分分析を深めながら、来年の予算になるかどうかは、何とも今の段階では言えませんが、しっかり予算全体のヒアリング等を通じて、進めていきたいというふうに思っております。

●議長(佐藤武雄) 小川議員。

◆3番(小川敬史) 今のところ、総合的に検討していきたいというお話でしたが、昨日のことなのですけれども、今回の補正予算で、企業版ふるさと納税として、まち・ひと・しごと、創生総合戦略に使ってほしいと、500万円の寄付をいただきましたが、子育て支援の充実に向けて、子育て支援の増額について、こちらを活用する予定が、今のところあるのかどうかお尋ねします。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 具体的に、その財源をもって、そういう一つの一時的な、一時的なという言い方は失礼ですが、そういうことに充当していくかということは、慎重に、やはり判断しなければいけないというふうに思っています。

●議長(佐藤武雄) 小川議員。

◆3番(小川敬史) 私は、先ほども言いましたが、少子化、人口減少に対して本当に危機感を持っています。町内でも子育て支援の充実を求める署名活動が行われているように、住民も、子どもが少なくなっていることに対して危機感を持っています。今、子育て支援ガイドというものが、町では平成27年以降、作られていないようですが、これも、お金をかけなくても良いので、ぜひ、住民に、また移住を考えている皆さんにも、これを配っていただくと、子育ての部分でどういう補助が出るとか、力を入れているという部分が非常に分かりやすいと思うので、これをお願いしたいと思います。まだ、来年度予算に入れるかどうか検討するというお話でしたが、僕としては、やはり、子どもは宝だと思いますので、将来信濃町を担っていく子どもたちへ、一時的な支援だけでなく、継続的な支援の更なる充実を求めて、これで、諦めずに今後も継続的に質問していきたいと思っております。以上で今回の一般質問を終わります。

●議長(佐藤武雄) 以上で、小川敬史議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため、午後1時まで休憩といたします。

(終了午前11時42分)